

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

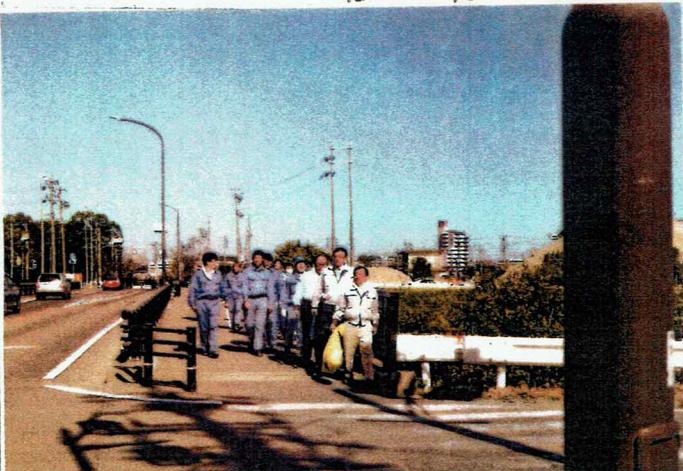
発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



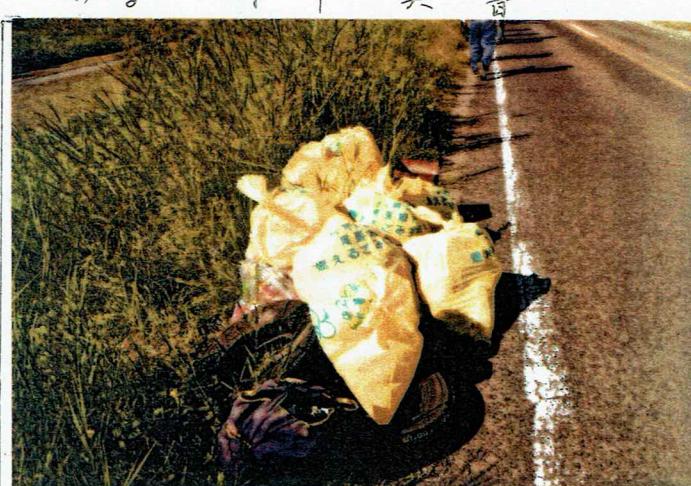
では同様の動きが先行してゐる。考えてみれば、なかなか慣れる道真である。冷めたものなどおしゃべり飲むて手を出でる弱い者にやうに優しい軽くて何よりも運んでいたが、たゞ人種が何ら便利さを手放さないを以てはならない。



気候が變る、
高温化の影響だ。
「異常」記
録的」かも「普
通」になりつつあるこ
とを、おそれる。
そして大勢の犠牲に
大粒の空知島雨」
も降る。
空から降りる雨とは、
涙のことである。
科学技術がいかに
進歩しようと、
雨を止むことはない。
とは言へない。



どうまで世の中は便利になるのだろうか。
現金を直接やりとりしない貨物が普及するかもしれない。
空を飛ぶ車の実現について、政府が直ぐに検討を始めたそうだ。
そんな技術革新の加速を意味するニュースをよく見てくる。
あくまでも技術革新の一端で、便
さから距離も置こうとする機運が盛り上がる。
バス専用のストップをやめようとす
る動きだ。海を汚染してきてアラシ
をわれわれは何とかしなければな
らぬ。ストローはその象徴に付て
る。外食大手のオーラー・ホールディングスは全廃する方針を決めた。



今年の梅雨明けは全国的に早めに感じたが、さうではなくて、人の目を惹いていたわけではなかった。西日本から東日本にかけて梅雨前線がしぶとく居残り、南からの暖かく湿った空気が流れ込み、記録的な大雨になつたと聞く。

